

## 敬愛学園 植草学園との激闘制しV 1 2 千葉東2年振りの栄冠

去る8月19日・20日に、男子柏井高校、女子土気高校をメイン会場に第31回千葉市民ジュニアバレーボール大会(千葉市民総体の一環)が開催された。男子は、千葉東高校が粘る千葉北高校を振り切り、2年ぶり8度目の栄冠を手にした。一方女子は、王者敬愛学園が、急速に力をつけてきた植草学園大附属高校の挑戦を退け、7年連続の栄冠に輝いた。また柏井をぎりぎりまで追いつめた千葉女子の活躍も特筆すべきものであった。

<男子>

{A}

柏 井 2	$\begin{bmatrix} 25 & - & 18 \\ 25 & - & 10 \end{bmatrix}$	0	千葉南	千葉東2	$\begin{bmatrix} 25 & - & 20 \\ 27 & - & 20 \end{bmatrix}$	0	柏 井				
千葉東2	$\begin{bmatrix} 21 & - & 6 \\ 25 & - & 12 \end{bmatrix}$	1	千葉南								

{B}

磯 辺 2	$\begin{bmatrix} 25 & - & 6 \\ 25 & - & 8 \end{bmatrix}$	0	渋谷幕張	柏 橋 2	$\begin{bmatrix} 25 & - & 6 \\ 25 & - & 8 \end{bmatrix}$	0	千葉西
磯 辺 2	$\begin{bmatrix} 25 & - & 18 \\ 21 & - & 25 \\ 25 & - & 18 \end{bmatrix}$	1	千葉西	柏 橋 2	$\begin{bmatrix} 25 & - & 6 \\ 28 & - & 4 \end{bmatrix}$	0	渋谷幕張
千葉西2	$\begin{bmatrix} 25 & - & 16 \\ 25 & - & 15 \end{bmatrix}$	0	渋谷幕張	柏 橋 2	$\begin{bmatrix} 25 & - & 15 \\ 19 & - & 25 \\ 25 & - & 21 \end{bmatrix}$	1	磯 辺

{ C }

京葉工業 2	$\begin{bmatrix} 25 & - & 22 \\ 26 & - & 24 \end{bmatrix}$	0 県立千葉	幕張総合 2	$\begin{bmatrix} 25 & - & 5 \\ 25 & - & 10 \end{bmatrix}$	0 昭和秀英
県立千葉 2	$\begin{bmatrix} 25 & - & 8 \\ 25 & - & 7 \end{bmatrix}$	0 昭和秀英	幕張総合 2	$\begin{bmatrix} 25 & - & 22 \\ 25 & - & 9 \end{bmatrix}$	0 京葉工業
京葉工業 2	$\begin{bmatrix} 25 & - & 18 \\ 25 & - & 15 \end{bmatrix}$	0 昭和秀英	幕張総合 2	$\begin{bmatrix} 25 & - & 19 \\ 25 & - & 12 \end{bmatrix}$	0 県立千葉

{ D }

千葉北 2	$\begin{bmatrix} 25 & - & 8 \\ 25 & - & 9 \end{bmatrix}$	0 千城台	敬愛学園 2	$\begin{bmatrix} 25 & - & 22 \\ 25 & - & 10 \end{bmatrix}$	0 市立千葉
千葉北 2	$\begin{bmatrix} 25 & - & 1 \\ 25 & - & 11 \end{bmatrix}$	0 市立千葉	敬愛学園 2	$\begin{bmatrix} 25 & - & 17 \\ 21 & - & 25 \\ 25 & - & 13 \end{bmatrix}$	1 千城台
千葉北 2	$\begin{bmatrix} 25 & - & 16 \\ 25 & - & 19 \end{bmatrix}$	0 敬愛学園	市立千葉 2	$\begin{bmatrix} 27 & - & 25 \\ 24 & - & 26 \\ 25 & - & 14 \end{bmatrix}$	1 千城台

<決勝トーナメント>

{1回戦}

千葉東2	$\begin{bmatrix} 25 & - & 14 \\ 27 & - & 25 \end{bmatrix}$	0 敬愛学園	磯辺2	$\begin{bmatrix} 25 & - & 21 \\ 21 & - & 25 \\ 25 & - & 22 \end{bmatrix}$	1 幕張総合
------	--	--------	-----	---	--------

千葉北2	$\begin{bmatrix} 25 & - & 19 \\ 23 & - & 25 \\ 25 & - & 21 \end{bmatrix}$	1 柏井壇	橋2	$\begin{bmatrix} 25 & - & 19 \\ 25 & - & 5 \end{bmatrix}$	0 京葉工業
------	---	-------	----	---	--------

{準決勝}

千葉東2	$\begin{bmatrix} 25 & - & 17 \\ 13 & - & 25 \\ 25 & - & 18 \end{bmatrix}$	1 磯辺	千葉北2	$\begin{bmatrix} 16 & - & 25 \\ 25 & - & 10 \\ 25 & - & 19 \end{bmatrix}$	1 壇橋
------	---	------	------	---	------

{決勝}

千葉東2	$\begin{bmatrix} 25 & - & 12 \\ 25 & - & 21 \end{bmatrix}$	0 千葉北
------	--	-------

(2年ぶり8回目の優勝)

準決勝でフルセットの激戦の末勝ち上がった千葉東と千葉北の対戦。第1セット序盤、千葉東は、市東・星野を軸に確実に得点を重ねていく。千葉北のタイム後もライトから古川や三橋がレフトから順調に加点する。千葉北はエース加瀬や熊谷がレフトから攻撃するも、どうしても攻撃が単調になる。セッター西浦が体調不良でベンチスタートというのも痛い。その後もセッター鈴木のツアタックなど攻撃の手を緩めない千葉東が、25-12で先取した。

2セット目、千葉北はセッター西浦投入を決断。今田のクイックや三枝のライト攻撃に活路を見出そうとするが、今ひとつコンビが合わない。何とか熊谷のスパイクで7-9と追いすがるが、ここというところでサーブミスで波に乗りきれない。それでもやっとタイミングが掴めてきたか秋田や今田がブロックで加点した流れの中で、両者が死力を尽くした長いラリーが展開される。これを制したのは千葉東。ここから千葉北はミスを連発、落ち着きのたエース加瀬が硬軟使い分けた攻撃でリードを広げる。最後は、市東がライトからスパイクを決めて25-21。千葉東が2年ぶり8度目の優勝を飾った。

<女子>

{ A · B }

幕張総合 2	$\begin{bmatrix} 25 & - & 11 \\ 25 & - & 3 \end{bmatrix}$	0 千葉明徳 土 気 2	$\begin{bmatrix} 25 & - & 16 \\ 25 & - & 15 \end{bmatrix}$	0 千葉西

市立千葉 2	$\begin{bmatrix} 25 & - & 7 \\ 25 & - & 16 \end{bmatrix}$	0 千葉西 市立千葉 2	$\begin{bmatrix} 25 & - & 17 \\ 23 & - & 25 \\ 28 & - & 26 \end{bmatrix}$	1 土 気

幕張総合 2	$\begin{bmatrix} 25 & - & 12 \\ 25 & - & 6 \end{bmatrix}$	0 土 気 市立千葉 2	$\begin{bmatrix} 25 & - & 22 \\ 25 & - & 18 \end{bmatrix}$	0 千葉明徳

{ C · D }

千葉商業 2	$\begin{bmatrix} 25 & - & 16 \\ 25 & - & 23 \end{bmatrix}$	0 千経大附 千葉南 2	$\begin{bmatrix} 25 & - & 20 \\ 25 & - & 9 \end{bmatrix}$	0 檜橋・京葉 工業

検見川 2	$\begin{bmatrix} 13 & - & 25 \\ 25 & - & 23 \\ 25 & - & 16 \end{bmatrix}$	1 千葉南 検見川 2	$\begin{bmatrix} 25 & - & 17 \\ 25 & - & 15 \end{bmatrix}$	0 檜橋・京葉 工業

千葉商業 2	$\begin{bmatrix} 25 & - & 14 \\ 23 & - & 25 \\ 25 & - & 20 \end{bmatrix}$	1 千葉南 検見川 2	$\begin{bmatrix} 16 & - & 25 \\ 25 & - & 15 \\ 25 & - & 20 \end{bmatrix}$	1 千経大附

{ E · F }

若松 2	$\begin{bmatrix} 25 & - & 5 \\ 25 & - & 15 \end{bmatrix}$	0 昭和秀英 磯辺 2	$\begin{bmatrix} 25 & - & 18 \\ 25 & - & 19 \end{bmatrix}$	0 千葉北

磯	辺2	$\begin{bmatrix} 25 & - & 18 \\ 25 & - & 12 \end{bmatrix}$	0	千 城 台	千 葉 北2	$\begin{bmatrix} 25 & - & 17 \\ 25 & - & 12 \end{bmatrix}$	0	千 城 台
---	----	--	---	-------	--------	--	---	-------

若	松2	$\begin{bmatrix} 25 & - & 6 \\ 25 & - & 21 \end{bmatrix}$	0	千 葉 北	磯	辺2	$\begin{bmatrix} 15 & - & 25 \\ 25 & - & 20 \\ 25 & - & 15 \end{bmatrix}$	1 昭和秀英
---	----	---	---	-------	---	----	---	--------

{G}

千葉女子2	$\begin{bmatrix} 25 & - & 6 \\ 25 & - & 14 \end{bmatrix}$	0	市立稲毛	千 葉 東2	$\begin{bmatrix} 25 & - & 17 \\ 25 & - & 13 \end{bmatrix}$	0	県立千葉
千葉女子2	$\begin{bmatrix} 25 & - & 12 \\ 25 & - & 13 \end{bmatrix}$	0	県立千葉	市立稲毛2	$\begin{bmatrix} 25 & - & 18 \\ 12 & - & 25 \\ 25 & - & 10 \end{bmatrix}$	1	千 葉 東
千葉女子2	$\begin{bmatrix} 25 & - & 17 \\ 25 & - & 13 \end{bmatrix}$	0	千 葉 東	県立千葉2	$\begin{bmatrix} 25 & - & 15 \\ 20 & - & 25 \\ 26 & - & 24 \end{bmatrix}$	1	市立稲毛

<決勝トーナメント>

{一回戦}

千葉商業2	$\begin{bmatrix} 25 & - & 20 \\ 25 & - & 21 \end{bmatrix}$	0	千 葉 東	磯	辺2	$\begin{bmatrix} 25 & - & 15 \\ 25 & - & 16 \end{bmatrix}$	0	市立千葉
千葉女子2	$\begin{bmatrix} 25 & - & 12 \\ 25 & - & 10 \end{bmatrix}$	0	検 見 川					

{準々決勝}

敬愛学園 2	$\begin{bmatrix} 25 & - & 10 \\ 25 & - & 14 \end{bmatrix}$	0 千葉商業	幕張総合 2	$\begin{bmatrix} 25 & - & 12 \\ 25 & - & 15 \end{bmatrix}$	0 若松
植学大附 2	$\begin{bmatrix} 25 & - & 13 \\ 25 & - & 9 \end{bmatrix}$	0 磯辺柏井 2	$\begin{bmatrix} 21 & - & 25 \\ 25 & - & 22 \\ 25 & - & 23 \end{bmatrix}$	1 千葉女子	

{準決勝}

敬愛学園 2	$\begin{bmatrix} 25 & - & 13 \\ 25 & - & 14 \end{bmatrix}$	0 幕張総合
--------	--	--------

王者敬愛学園に挑むは、再建を託された橋場新監督の下、少人数ながら復活の兆しを見せる幕張総合。

第1セット序盤、敬愛学園貝塚のサービスエースなどで4-1とリード、しかし幕張総合も徐々に体制を立て直し、高山のサービスエース、セッター小田川のツーアタックなどが功を奏し、9-9の同点に持ち込んだ。このままの勢いでいくかと思われたが、さすが敬愛学園、中村がサービスエースを2本決めると、栗林がブロックと流れを渡さない。14-9、さらに18-10と着々と加点していく。幕張総合も主将草野や高山のセンター陣や、ライトから新井がスパイクを決めるも、敬愛学園のサウスポー鈴木がライトから強烈なアタックを決め、さらにサービスエースで敬愛学園が第1セットを奪った。

第2セットに入ってもこの流れは変わらない。敬愛学園相川のサービスエースなどで6-1とリード。幕張総合も石田のサービスエースや草野のブロックで3連続ポイントするも、敬愛学園西間木のトスにアッカーチームが応えリズムをつかむ。幕張総合草野がダイレクトスパイクも単発、20-8から高山が強打軟攻織り交ぜて最後の踏ん張りを見せ5連続ポイントを奪うも、敬愛学園に押し切られた。

植学大附 2	$\begin{bmatrix} 20 & - & 25 \\ 25 & - & 23 \\ 25 & - & 22 \end{bmatrix}$	1 柏井
--------	---	------

準々決勝で、千葉女子の頑張りに後一歩まで追いつめられた柏井。元Vリーガー桐生監督の下、今年関東大会まで進出した植草学園大学附属の挑戦を受ける。

千葉女子戦の反省からか、柏井は序盤から攻めの姿勢を貫く。セッター植草が好サーブを連

発、植学のミスを誘い、7-0とリードした。植学川崎がようやくスパイクを決めると、植学鈴木・村嶋のスパイクや大田のブロックで、柏井は川嶋のスパイク、石井の硬軟使い分けた攻撃で1点ずつを取り合うシーソーゲーム。しかし点数は詰まらない。柏井石原のサービスエースが決まると流れは柏井となり、交代した永井がスパイクを決めると22-12とリードを広げた。しかしここから植学の反撃が始まる。増淵がスパイク・ブロックを連続で決めると、助川の連続サービスエースで20-23と追い上げた。しかし序盤の失点は大きく、25-20で柏井が第1セットを奪った。しかし植学後半の頑張りは次のセットに可能性をもたらせた。

第2セットにはいると今度は植学が8-3とリード。しかし柏井の川嶋・斎藤が4連続ブロックを決めると様相が一変、植学馬場がフェイントを決めると、柏井川嶋が連続ブロックなど、2点差以上開かないもつれる展開となった。21-18と植学リードから、勝ちを焦った植学が連続スパイクミス、すかさず柏井水島がスパイクを決めて23-21と逆転。開き直った植学は川崎・鈴木が連続ブロック、最後は鈴木のスパイクが決まり、植学が逆転で第2セットを奪取した。

第3セットにはいると、植学セッター佐野のトスに応えアタッカー陣が躍動、8-2とリード。しかし柏井は踏ん張る。川嶋がきれいにストレートを打ち抜く、サーブをエンドラインに落とす。10-10の同点となった。しかし柏井に痛恨のサーブミスが続き、少しずつ植学がリード。柏井水島が植学のブロックを破る気迫のスパイクで追いすがるも、25-22で植学が柏井を振り切り、初の決勝進出を果たした。

### {決 勝}

敬愛学園 2	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr><td>25</td><td>-</td><td>21</td></tr> <tr><td>19</td><td>-</td><td>25</td></tr> <tr><td>25</td><td>-</td><td>12</td></tr> </table>	25	-	21	19	-	25	25	-	12	1 植学大附
25	-	21									
19	-	25									
25	-	12									

(7年連続12回目の優勝)

初の決勝進出を果たした植草学園大附属。王者敬愛学園に真っ向勝負を挑む。

第1セット序盤、敬愛鈴木がライトから中村がセンターから攻撃すれば、植学川嶋のスパイクや大田のブロックで攻め返す一進一退の攻防が11-11まで展開される。敬愛栗林のアタックで抜け出しが、植学佐野のブロックや増淵のライトへ流れる攻撃などで追いすがる。しかし中村のAクイックからのフェイントなどでジリジリと敬愛がリードしていく。最後は栗林がセンターから逆クロスに鮮やかにスパイクを決めて、敬愛学園が先取した。

第2セットにはいると、敬愛のスパイクミスに乗じて植学が攻める。大田が敬愛のブロックをぶち破るアタックを決め、馬場のブロックやリベロ本西のスーパー・レシーブが飛び出すなど7-2とリードした。しかし敬愛もセッター貝塚の意表をついたツーアタックや石橋のアタックなどでジリジリと追い上げる。11-9・15-13・16-14・18-16とピッタリくつついで離れない。ついに貝塚のブロックと植学のスパイクミスで18-18と追いついた。しかしここで敬愛に痛恨のドリブル。息を吹き返した植学は、川崎のレフトからのプッシュ、佐野のサービスエースでセットポイント、最後は植学鈴木のスパイクが敬愛のコートに突き刺さり、25-19で植草学園大附属が奪い返した。

第3セットは、増淵がセンターからCクイックを決めるも、序盤から完全に主導権は敬愛学

園。中村・鈴木のブロックにスパイクさらにサービスエースなど一気に9-1。その後も石橋や馬場がスパイクを撃ち込み、第2セットを奪い勢いに乗らなければならない植学のお株を奪う攻撃で、18-5と突き放す。こうなると植学に反撃する力は残っていない。古川のスパイクなどで着々と加点する敬愛は、主将西間木のスパイクで熱戦に終止符を打った。敬愛学園は7年連続11回目の優勝。

ただこのゲームはワンタッチなど審判に対するアピールが強く、熱戦に水を差すことになったのは残念である。

(文責：千葉市バレーボール協会高校部会)

敬愛学園に2年連続で挑む植草学園大附属。

第1セット、けいあいの攻撃に面白いように決まる。金子と植村が二人でスパイク・ブロックにと連続5点。さらに高見澤の連続でスパイクを決め12-2と圧倒する。植草もようやく助川のトスに応え、稻吉・上別府・佐野が反撃し13-8まで追いすがったが、敬愛澤井・西間木がスパイク、栗林も2ブロックポイントと活躍し、25-10と奪った。

第2セット、メンバーを入れ替えて臨んだ敬愛に対し、植草が序盤から開き直った攻撃で抵抗、植草佐野や馬場が活躍したが、12-9と敬愛のリードは変わらない。ところが中村・吉沢・井川などが順調に加点し流れを渡さなかつた敬愛が突然ミスを繰り返す。3連続スパイクミスは痛い。勢いに乗った植草が17-13と逆転した。しかしさすが敬愛、ここから踏ん張り再び逆転する。こうなると、植草に再逆転する気力は残っておらず、25-19と敬愛に振り切られた。

敬愛学園への挑戦権を得るのは、柏井か幕総か。

第1セット序盤、幕総が村田・草野のスパイクでリードを奪えば、柏井赤取り・日下のスパイクで追いつくという展開。高木のスパイクで柏井が一歩抜け出すと、8-5さらに12-8とリードを広げた。しかし幕総も高山らのスパイクで13-12と追いすがる。ここで柏井日下がきれいにストレートを打ち抜き優位に立ったかも思いきや、今度は幕総杉山がすロスに決め、更に桑田のサービスエースで、ついに18-17と逆転した。ここで柏井日下が、ストレート・クロスにスパイクを打ち分け、最後はブロックでセットポイントを奪い、柏井が25-22で先取した。

第2セットは今度は幕総が先行し、柏井が追いかける展開。幕総高山がつなぎのスパイクを上手く柏井のコートに落とし、8-5とリードした。しかしここから2連続スパイクミスで次第に流れは柏井へ。高木の2連続サーブスエースも効果的で、常に柏井がリードする展開と変わった。幕総は苦しい中杉山・村田のクロススパイクで抵抗するも、一度もリードを奪えず、25-21で押し切られた。

30回を迎える千葉市大会で、敬愛10回・柏井16回と優勝をほぼ独占する両校。KK対決が始まった。

第1セット序盤から、敬愛高根沢がスパイクにブロックに活躍を見せ、貝塚・吉沢・西間木らサイド攻撃陣もセッターで主将の池添のトスに応え小気味いい攻撃を仕掛けていく。一方柏井の赤鳥・宮本のスパイク、石井のブロックなどで抵抗するが、今年の敬愛は凡ミスが少ない。中盤以降は最大詰められても4点差、これを最後まで維持し、池添のブロックで、第1セットを奪った。

第2セットになると、敬愛の攻撃は益々磨きがかかる。金子がブロックにスパイクに活躍、負けじと西間木・吉沢も思い切りの良いスパイクで点差を広げにかかる。栗林のブロックを2本決めるなど完全にリズムに乗った。柏井も高木がAクイックを、日下のスパイクもと抵抗するが、敬愛の勢いを止めることができず、最後は吉沢が決めて、25-10と思わぬ大差で敬愛学園が奪取、ついに6年連続と記録を伸ばし、11度目の優勝を飾った。

(文責：千葉市バレー協会高校部会)